



京橋から瀬戸内海へ航海実験

“かつての岡山の玄関口・京橋から瀬戸内海への航路を再開させたい”昨年発足した「瀬戸内の島々交流協議会」(島会)の掲げた取り組みは着々と進み、12月3日(木)には京橋から犬島、豊島、そして高松へ向けた航海実験が行われました。

実験に使われた船は豊島フェリーが所有する「マリンあすか」(20人乗り)で午前9時に京橋を出発、40分近くで犬島に到達する結果を得ました。

犬島へ向けた実験は5月に島会が7人乗りのボートで、11月には豊島フェリーが20人乗りで実験。少なくとも定員40人程度の船までは大丈夫という可能性を導き出しました。

しかしこれですべて解決というわけではありません。これからこの航路が確定するためには更なる安全性の確認、漁協の協力、採算ベースの計算など難関が待ち受けています。

江戸時代から続いた京橋界隈の賑わいを復活させたいという町づくりも含めて、夢実現までもう一歩です。(下山)

平成二十二年 教育研究助成・文化活動助成の募集 締切迫る！

教育研究助成

対象 岡山県内の学校園に所属する教育関係者、及びその地域、保護者の方々

応募方法 学校園または市町村教育委員会等へ配付の募集要項をご覧ください、所定の申請書に必要事項を記入の上、当財団事務局宛に郵送

応募期間 平成22年1月31日(日)まで【消印有効】

文化活動助成

対象 岡山県内で文化活動を行っている個人・団体(原則として社会人)ただし、学術研究や単なる趣味や同好の活動・調査は除く

応募方法 市町村教育委員会、公民館等へ配付の募集要項をご覧ください、所定の申請書に必要事項を記入の上、当財団事務局宛に郵送

応募期間 平成22年1月31日(日)まで【消印有効】

*詳細につきましては、当財団HPをご参照ください。

財団法人福武教育文化振興財団 助成先の活動

○西大寺郷土芸能フェスティバル2010

開催日 平成22年2月7日(日) 12:30~15:45 参加費500円

会場 西大寺市民会館大ホール

主催 西大寺郷土芸能フェスティバル実行委員会

○おかやま宿場町やかげ 流しびな

開催日 平成22年3月28日(日) 10:30~

*流しびな行列(本陣・脇本陣通り/11:00~12:30)

*流しびな行事(小田川・弦橋・西河原/開会13:30~)

主催 宿場町やかげ流しびなの会

○平成21年度岡山県天神山文化プラザ企画展~天プラ・セレクション

開催日 ◎浅野有紀展 平成22年2月2日(火)~2月7日(日)

◎大西マサエ展 3月16日(火)~3月21日(日)

◎福井泉展 3月23日(火)~3月28日(日)

◎貞政絢子展 3月30日(火)~4月4日(日)

会場 天神山文化プラザ 入場無料

主催 岡山県天神山文化プラザ

○平成21年度学力・人間力育成推進会議 第2回交流連絡会

開催日 平成22年3月6日(土) 13:00~(予定)

会場 岡山プラザホテル

内容 研究団体による発表及び指導顧問の東京大学大学院市川伸一教授からの指導助言

主催 学力・人間力育成推進会議



[特集2] [特集1]

報 発

瀬戸内国際芸術祭の現地視察

二〇一〇瀬戸内海の魅力を世界に

告 信

★浅口市立六条院小学校を訪ねて★京橋から瀬戸内海へ航海実験
★平成二十二年 教育研究助成・文化活動助成の募集★平成二十一年度 助成先の活動

浅口市立六条院小学校を訪ねて

文部科学省が毎年4月に行っている「全国学力・学習状況調査」の岡山県の結果は、都道府県比較で平成21年度は若干の改善傾向にあるものの依然として下位にあることから、子どもたちの学力をどう高めていくかが県内の各界で大きな関心事となっています。

このような中、積極的に研究授業や授業公開を行って、大きな成果をあげ注目を集めている浅口市立六条院小学校を訪ね、先生方が一丸となって子どもたちの学力保障と生きる力の育成に取り組んでいる姿を見学してきました。



最新設備を備えた校舎

六条院小学校は浅口市のほぼ中央に位置し、児童441名、教職員40名で浅口市内7小学校の中では比較的規模の大きい学校です。

明治5年に創立され140年近い伝統をもつ小学校ですが、平成17年から3年をかけて大規模改修を行い地震対策やバリアフリー構造が施された最新設備を備えた校舎になっています。

玄関を入ると、まず目に付くのが段差のない廊下。床や腰板には温かみのあるヒノキなど木材が使われ、3階建ての校舎には車椅子用のエレベーターが設置されるなど、高齢者や障害がある人に配慮した人に優しい学習空間となっています。

学校教育目標は「優しい心と健やかな体をもち、自ら学ぶ児童の育成」。

指導の重点目標を「子ども一人ひとりの学びや育ちを保障する」ことに置いて全教職員が一丸となって次の3点のことに取り組んでいます。

盛んな授業公開を通じて教師の力量を高め、

子どもたちの学びと育ちを保障する



授業公開が大きな成果に

第1に 保護者や地域と連携を図って子どもたちの基本的生活習慣の確立、ルール・規範意識の醸成、心や身体を耕すための年間を通した体力づくりや体験的な活動に取り組むこと。

第2に すべての学級で、子どもたちの発達を踏まえた学習規律や学習の約束、教科のねらいや特性を踏まえた学び方を学ばせるという学習のユニバーサルデザイン化の徹底。

第3に 基礎的・基本的な知識や技能の習得のため授業においては、学習目標を明確にして毎時間「めあて」と「まとめ」のある授業、子どもたち一人ひとりが考えを深める時間の確保や様々な体験活動を取り入れた授業に努めるとともに、年間指導時間数にプラスして「スキルの時間」を位置づけて取り組むこと。

さらに、横溝勇校長は、この指導の重点を実現するために最も大切なことは教師自身が授業の質を高めていくことが必須であると話しています。

年間を通じて授業公開を行い、多くの方々に見ていただくとともに、授業反省会を行って参加者全員で授業について論議を深めること、また教師自身が学校内外で多くの授業を見学することによって教師自身の力量が高まるとの話でした。

公開授業とその後の授業反省会に参加させていただきましたが、教師と子どもたちの真剣な授業態度を見学し、その後の授業反省会では他校の教師を含めて活発で熱心な意見交換が行われていました。

六条院小学校の教職員の合い言葉は「学びのユニバーサルデザインと授業の向上を目指して」「はじめに子どもありき」「授業を大切に」とありますが、この3つのことが具現化されていると感じました。

今岡山県下では、子どもたちの学力向上のために様々な取り組みが行われています。ここでは、六条院小学校の例を紹介しましたが、それぞれの取り組みが身を結んで成果があがることを期待したいものです。(佐々木)

瀬戸内国際芸術祭の現地視察に参加して

福武教育文化振興財団審査委員 白石孝子

今年、2010年7月～10月に開催される(瀬戸内国際芸術祭2010)「アートと海を巡る百日間の冒険」の現地視察が、昨年11月と12月の2回開催され、瀬戸内の島々を訪ねて巡るという経験のなかった私は、2回とも喜んで参加した。瀬戸内国際芸術祭についても、北川フラム氏が総合ディレクターを務めた「大地の芸術祭」の瀬戸内版ほどの認識しかなかった。

11月26日は、犬島と直島の視察だった。犬島は今回の瀬戸内芸術祭会場で唯一の岡山県内の開催地である。宝伝港からチャーター船に乗って約10分で犬島に着いた。小春日和の中で、かつての銅の工場跡が姿を変えて蘇っていた。三分一博志氏の設計による「犬島アートプロジェクト『精錬所』」に案内される。精錬所跡に残された煙突が、施設全体の温度調節に利用され、地下の狭くて暗く曲がりくねったアート空間は、アーティスト柳幸典氏による太陽が何処までも追いかけて来るといふ、子供も喜びそうな思いがけない演出である。自然エネルギーを利用した「環境システム」がテーマというこの『精錬所』は、至る所に自然光や空気を取り込む仕掛けがしてあり、人工的な空調はないという。科学と建築、そして現代美術と自然の協働作業が、未来的な創造空間を生み出している試みに感動して館を出た。

犬島港から直島ベネッセハウス埠頭に着いた時は昼を少しまわっていた。昼食後、ベネッセハウスミュージアム、地中美術館の見学をする。地中美術館では感覚だけが浮遊して、不思議な異次元空間を体験する。



①



②



③

12月12日に訪れたのは豊島と男木島、女木島、それに大島である。宇野港から先ず豊島へ向かう。ごみの島で有名になった豊島は、実は稔りの豊かな肥沃な島だった。ごみ処理場で、産廃処理の説明をしてくれた現地の女性職員の見事なガイド振りには、美術館の学芸員に負けないほどである。バスで島を廻りながら眺められた風景、実っているミカンやレモン、オリーブの木、そして棚田の風景には、ゴミではなくアートがふさわしい。荒れた棚田を再生する「棚田プロジェクト」。海を見下ろす其の右手には、内藤礼と西沢立衛の有機的なアート空間の基礎工事が始まっていた。

小雨の降りだした中を、香川県にぎわい創出課職員の案内で男木島、女木島、大島を回った。その時に渡された「こえび新聞」の見出しには、「瀬戸内国際芸術祭ってなに？」という大きな見出しがあって、ボランティアサポーターの募集も載っている。廻った島は、過疎という共通点を除けば、それぞれ個性があり魅力的だった。しかし、岡山からの直行船がないのである。

この芸術祭は瀬戸内の活性化が第一の目的だと云う。瀬戸内海の美しさは、やはり一度訪れてみないと分からない。今回の視察で、芸術祭には遠方の友人、知人を是非瀬戸内海に招きたいと思った。そして、岡山から出る船便の便宜を是非作ってほしいと願っている。

- ① ギャラリーカフェとして再生される家(大島)
- ② 棚田プロジェクト予定地(豊島)
- ③ 石垣の路地(男木島)

Cover Photograph

犬島時間 (青地大輔)



犬島は、ここ2、3年で大きく変わった。そういった中、「犬島」という場所がどんなところであったのかをふとふとすることがある。

周囲約3.6km。6つの島からなる犬島諸島のうちの唯一の有人島。この島は、良質な花崗岩の産出地と知られ、古くは江戸城、大阪城、岡山城の石垣、明治以降では大阪築港など、全国各地で犬島の石が使用されている。また、明治の終わりには、犬島精錬所が開設され、営業し

ていた最盛期の10年間に3,000人もの人たちが生活していた。しかし、精錬所閉鎖と採石業の衰退により現在の人口は55人(平成21年2月1日現在)となっている。そして2010年、アートという手段で新たな最盛期を迎えようとしている。

島を訪れる多くの人のきっかけは、対岸からも見える「煙突」と廃墟となった「精錬所」だ。それは、ドイツのフェルクリンゲン製鉄所を思い起こさせる魅力的な建造物である。ただ単に廃墟が存在しているのではなく、瀬戸内海にうかがふ小さな島だからこそ、その魅力に引きつけられたのではないだろうか。また、島であったからこそ近代化の波にのまれず、当時の面影がそのまま残っていたのではないだろうか。

そこで私たちが忘れてはならないことがある。この島に生まれるアートが、島の日常やそういった時代背景のもとにあることを。煙突をバックに広がる集落。その中に点在するアート。アートも島の一部なのだ。

そういったことを再認識させてくれるのが、この光景が広がるこの場所なのかもしれない。

Editor's comments

あけましておめでとうございます。

昨年を表す漢字は「新」だったようですが、政治の世界の先行不明な「新」はともかくとして、身近なところではベネッセコーポレーションとグループがベネッセホールディングスとなり、世界ナンバー1の教育・生活企業をめざして、より筋肉質な体制に新生しました。

今年は瀬戸内国際芸術祭。希望と展望のある「新」が次々に生まれてほしいものです。財団も新たな気持ちで頑張ります。今年も引き続きましてよろしくお祈りします。(中野)

季刊

不易

F U E K I vol.37 2010.1.25

財団法人 福武教育文化振興財団

〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17

TEL 086-221-5254 FAX 086-232-3190

http://www.fukucake.or.jp/

制作 株式会社 吉備人

デザイン 田中雄一郎(QUA DESIGN style)

直島 *Naoshima*

宇野港からフェリーで20分、人口約3,400人、面積は都窪郡早島町とほぼ同じです。古くから海上交通の要衝で、幕末から明治時代にかけては芝居が盛んに行なわれ、今でも女性だけの人形浄瑠璃「直島女文楽」が伝統を受け継ぎ、芸術祭では特別公演を行うことになっています。地中美術館、ベネッセハウスミュージアム、家プロジェクトなどを擁し、年間延べ34万人が世界中から訪れる現代アートの聖地 NAOSHIMAでは、昨年オープンした直島銭湯「I♥湯」や、建設中の「李禹煥(リウファン)美術館」が来場者をお待ちします。



大竹伸朗 直島銭湯「I♥湯」(2009) 撮影:渡邊修

(アーティスト:大竹伸朗氏、安藤忠雄氏ほか)

ART
SETOUCHI
2010

ロゴマーク

女木島 *Megijima*

高松の沖合いに位置する面積2.66km²、人口約200人の島で、港の周辺には防風防潮用の石垣「オオテ」が築かれ、独特の景観を作っています。山頂にある洞窟が鬼のすみかとして観光地化されましたが、この洞窟も現代アートの舞台となります。島そのものの美しさを活かし、海・波・風・樹・光などをテーマに島の自然を体感させる作品や、小学校や空家などを活かしたアートで、島の生活を幻視させます。また、世界のギャラリーが集結する「福武ハウス(仮称)」も設けられます。



(愛知県立芸術大学、木村崇人氏、レアンドロ・エルリッヒ氏ほか)

二〇一〇 瀬戸内海の魅力を 世界に発信



豊島 *Teshima*

宇野港からフェリーで40分、人口約1,000人、浅口郡里庄町より少し大きい島です。産業廃棄物不法投棄でクローズアップされましたが、豊富な湧き水と肥沃な棚田で、かつては島外に米を出荷するほど稲作が盛んでした。乳牛を多く飼育し「ミルクの島」と呼ばれたこともあり、この特性を活かし「食」と「アート」を掛け合わせて「自給自足」「地産地消」の新しい地域社会のあり方を発信します。

建設中の豊島美術館や棚田整備、空家利用のレストラン、3つの集落と清水や浜辺への作品設置により、「食と農」をテーマにアートによる島の明日につなげて行きます。フランスの世界的な現代アーティスト クリスチャン・ボルタンスキー氏のプロジェクトもお楽しみに。
(青木野枝氏、塩田千春氏、西沢立衛氏、内藤礼氏ほか)



ポスター

男木島 *Ogijima*

女木島の北にある面積1.37km²、人口約200人の島で、北端には美しい男木島灯台があります。平地が少なく斜面に石垣を積んで民家や路地が作られており、特色あるすばらしい景観を生んでいます。これを活かして、集落を回遊し空間を体感できるようなアート展開が行なわれます。



また、港には、スペインの著名なアーティスト ジャウメ・プレサ氏のデザインによる交流館も建設されます。
(大岩オスカー氏、川島猛氏ほか)

いよいよ「瀬戸内国際芸術祭二〇一〇」の年になりました。美しい瀬戸内の島々に活力を取り戻し、地球上の全ての地域の『希望の海』となることを目指して七月十九日から「アートと海を巡る百日間の冒険」が始まります。すでに世界的に注目されている芸術祭ですが、地元でも期待感が高まっています。会場は備讃瀬戸の7つの島と高松港周辺。
今回はそのうちの4つの島をご紹介します。(中野)